

特別企画 三者共通キャリアフォーラム

「夏学 OB・OGと考えるアカデミックキャリア」

# インストラクショナル

藤原素子 (東京大学)

# きっかけ

## 最近、進路について質問してもらうことが増えた

- 「博士課程に進むとき、迷いはなかったんですか？」
- 「どの段階で学位取得後も研究を続けると決断したんですか？」
- 「ポスドクになるとき、どんな選考・面接があるんですか？」
- 「海外に赴任することに不安はなかったんですか？」
- ....

単に、自分が学位をとってポスドクになり、聞く立場から聞かれる立場になったから？

もしかして、**コロナ自粛のせいで学位取得後のキャリアについて情報を手に入れづらくなっている？**

コロナ前は、研究会のコーヒーブレイクや飲み会で、研究業界の先輩と話し、情報をもらえる機会があった

研究室に先輩がいれば話を聞けるが、コンスタントに博士後期過程の学生 or ポスドクがいる研究室はそう多くない

情報がない＝判断材料がない＝不安 (自分も一年前そうだった)

**学位取得後のキャリア**について**情報共有**の場を設定したら、一定の需要がありそう

# アカデミックキャリアとは？

「アカデミックキャリア」 = 大学、それに準ずる公的機関で働く研究者としてのキャリア

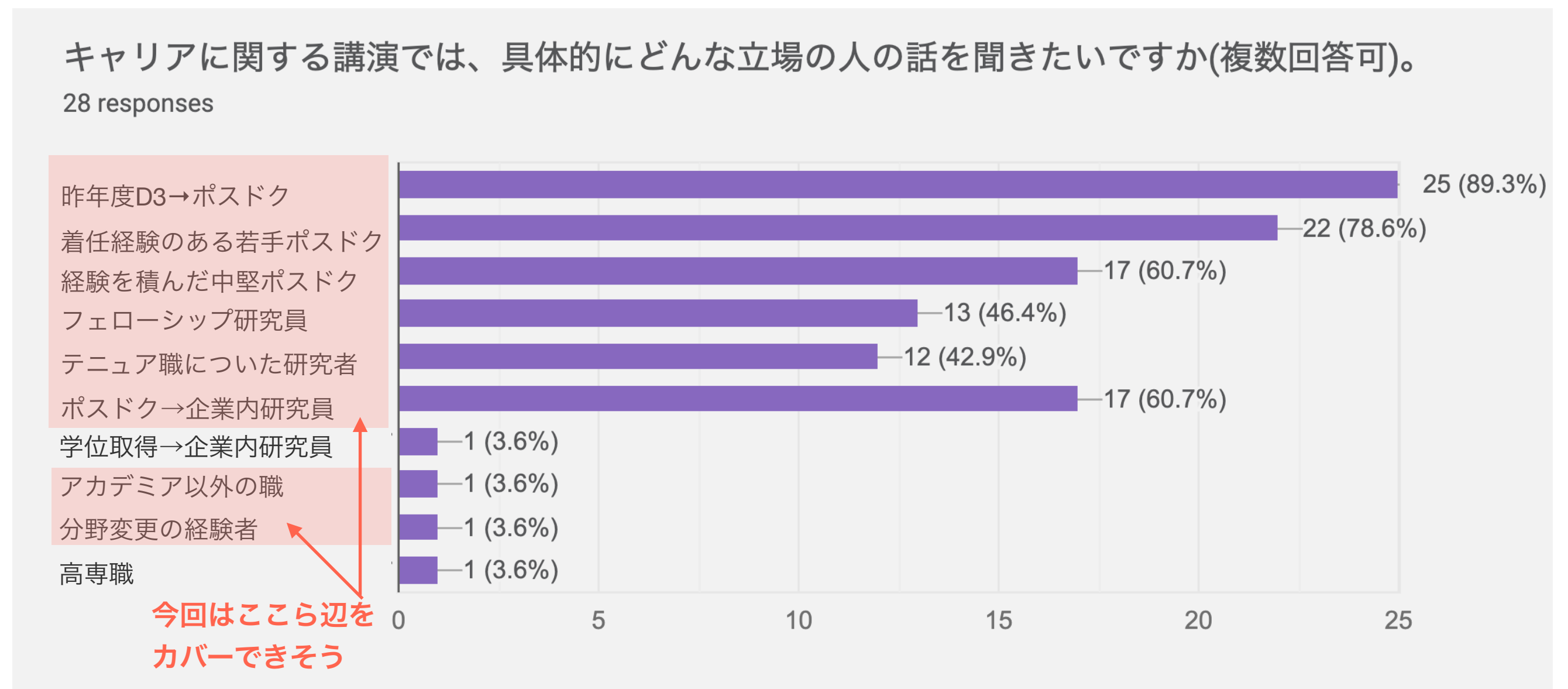
- 2022年1月、現D3コミュニティから依頼をいただき、海外ポスドクとして応募した経験を話した (のべ36名参加)
- 講演後のアンケート (28名回答) で「夏の学校でアカデミアに関するキャリア講演を聞きたい」という要望が上がった
- 確かに、海外の国際会議では若手向けのキャリアフォーラムが開催されていたりする、日本でもあっていいかも (cf. [Phenomenology Symposium](#): 会議日程に若手キャリアフォーラムが組み込まれている、講演者は現役研究者たち)
- 自分にも迷いはあったし、開催までにいろいろ意見をもらった
  - 現実は厳しい！キャリアフォーラムを開催したとしても、若手にとってディスカレッジな内容になるだけでは？
  - 自分はまだ任期付き職で経験が浅い、身分が確定しておりもっと経験を積んだ研究者の方に開催してもらった方がいいのでは？
  - 夏の学校参加者を対象 (M1~D3) にするならば、本当はアカデミアだけでなく学位取得後のキャリアを広く扱うべき？
- 自分も情報がなくて苦労したとき 業界の先輩たちに助けってもらった、今の自分にも何かできることがあるならやりたい進路を決める上で、いろんな情報を知っていることはプラスにはたらくはず

夏学運営陣の方々に協力してもらい、**夏学キャリアフォーラム**を開催することに

# キャリアフォーラムの立ち位置

## 寄せられた幅広い要望

- 1月の講演後のアンケートを通して、非常に幅広い要望があることが判明
- 「これは一人では到底カバーできない」  
業界の先輩たちに助けをもらうことに  
→ 夏学OB・OGを中心に協力いただきます
- 完全な形ではないが、まずは初回やってみる



すべての要望に応えられるわけではないが、これをきっかけに少しずつキャリアの話をする機会が増えていけば

## 情報共有・交流の機会を実現する

- 具体的な統計や傾向分析は、望めば自分でもできる、各大学で説明会もある
- 一方、いろんな経験を持った業界の先輩とキャリアパスに関して特化して直接話せる機会は意外と貴重？
- 交流の場を実現し、参加者それぞれが自分のほしい情報に自由にアクセスしてもらうのが一番ではないか？

# キャリアフォーラムの構成

- **そもそもアカデミックキャリアって？**

夏学にはM1の参加者も、「ポスドク・テニュア…」などの専門用語も説明が必要？

- **研究者としてのキャリアパス？**

学位を取った後、研究者としてどんなキャリアパスがあり得るのか？

- **カバーする業界分野？**

アカデミアに限らず幅広い視野を持って進路を考えている人も (eg. 教職、民間企業、公務員)

## 【第一部 企画講演】

→ このトークの後半

イベント参加の前提知識の共有

→ **佐藤亮介さんの経験談**

研究者のキャリアパスの一例

## 【第二部 ブース座談会】

[\[http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/school2022/docs/carier\\_booth.pdf\]](http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~sansha.wakate/school2022/docs/carier_booth.pdf)

← 講演者の情報はこちら↓

アカデミアのみに限らず様々な経験・キャリアを持った業界の先輩たちに協力いただき  
キャリアパスに関して情報共有・交流の場を設定します

- 研究員として、国内外で活躍している先輩
- 学位を取った後、分野を転向した先輩
- 大学の常勤職として研究している先輩
- アカデミアの外に飛び出し活躍されている先輩
- 学生結婚の話
- 出産・育児の話



**学位取得後の進路・キャリアを考えるきっかけにしてもらえたら幸いです**

# もっとも重要なポイント

## キャリアパスは**他人と違って当然**

- 研究テーマ・興味・業績・日本国内/海外志向・ライフプランなど、完全に同じ人は誰一人いない  
ひとりひとりキャリアパスは違って当然、他人を真似する必要もない  
興味の方角性・強み・アピールポイントなど、自分特有のものがあると思う
- 先輩方の経験談はひとつの例にすぎない、他の人には他の人のパスがある  
けれど、他の人のキャリアパスを聞くことは**自分の進路を考える上でとても参考になることが多い**
- 他人の言う「良い」環境 (eg. 名前が有名、規模が大きい、など) が必ずしも自分にとって最高の環境とは限らない  
(もちろん素晴らしい環境であることが多い！)
- 情報を集めるのも重要だが、情報を精査することもそれ以上に重要
- 初めてのことで戸惑うのは誰も同じ、業界の先輩方に積極的に助言やサポートをもらうことが重要だと思う  
でも、**最終的に判断するのは自分**

**「自分で自分を知ることが第一歩」とよく言われる、答えは既に皆さんの中にあると思います**

# 夏学OB・OGと考えるアカデミックキャリア

## 第一部: 企画講演

- インストラクション (30分) 藤原素子 (東京大学・ポスドク)
- ポスドクとしての八年半 (30分) 佐藤亮介さん (大阪大学・准教授)

## 第二部: ブース座談会

### ■ 夏学OB・OGと話すアカデミックキャリア (60分)

ご協力ありがとうございます!

- 秋田謙介さん (IBS・ポスドク)
- 秋山進一郎さん (東京大・特任助教)
- 阿部慶彦さん (神戸大・特別研究員)
- 鎌田耕平さん (東京大・助教)
- 酒井勝太さん (KEK・特別研究員)
- 佐藤亮介さん (大阪大・准教授)
- 長井遼さん (日立製作所・研究員)
- 野中千穂さん (広島大・教授)
- 濱田祐さん (KEK・特別研究員)
- 藤原素子 (東京大・ポスドク)
- 南崎梓さん (名古屋大・研究員)

# Contents

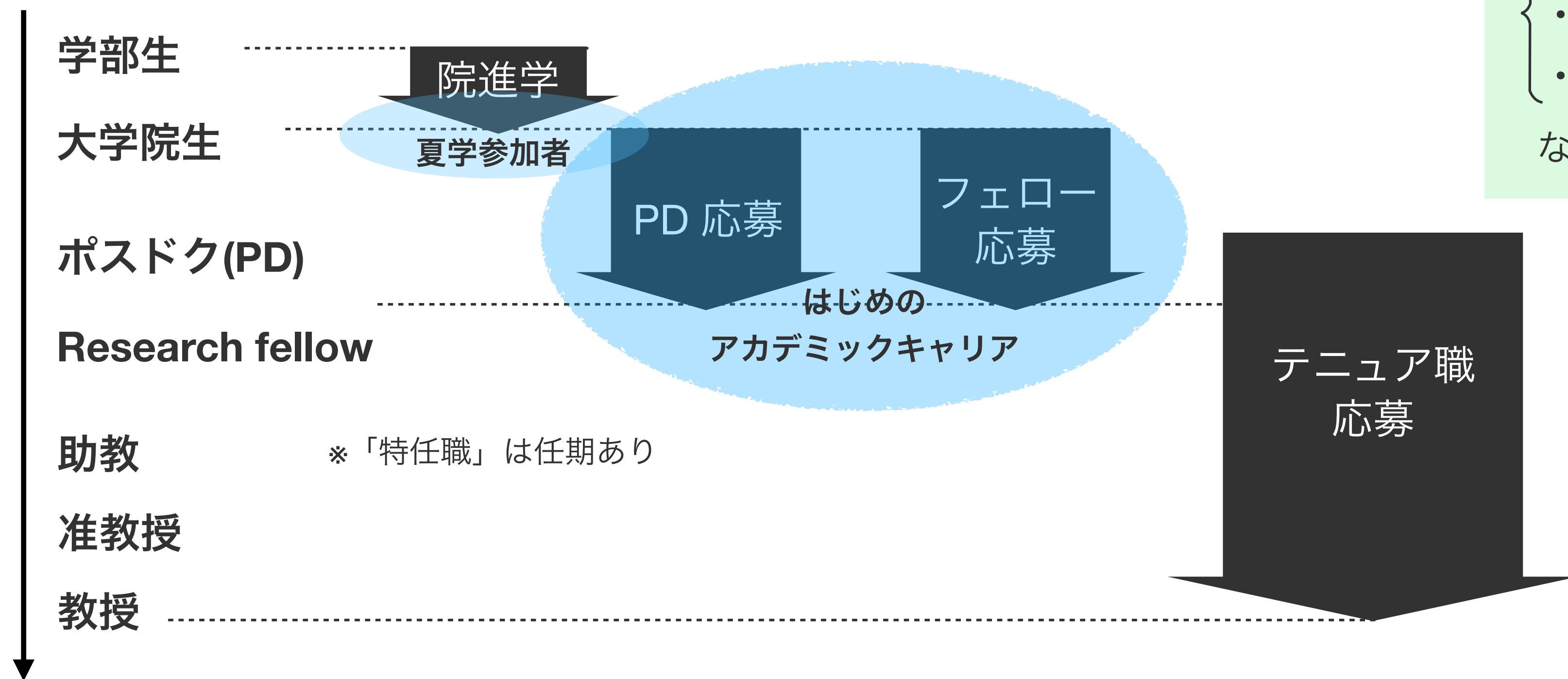
- アカデミックキャリア: 典型的なキャリアパス
- 学位取得後、はじめのアカデミックキャリア (=ポスドク・研究員)
- 情報の集め方



# アカデミックキャリア

[増田直紀 (2019) 中央公論新支社]

## 典型的なキャリアパス



- ポスドクとしての任期・着任回数
  - フェローシップの利用のタイミング
  - ファカルティ応募のタイミング
- など、詳細は人それぞれ選択が違う

**Postdoctoral researcher (ポスドク):** 博士号を持ち、研究主催者に雇われ給料を得て働く研究員 (典型的には2~3年契約)

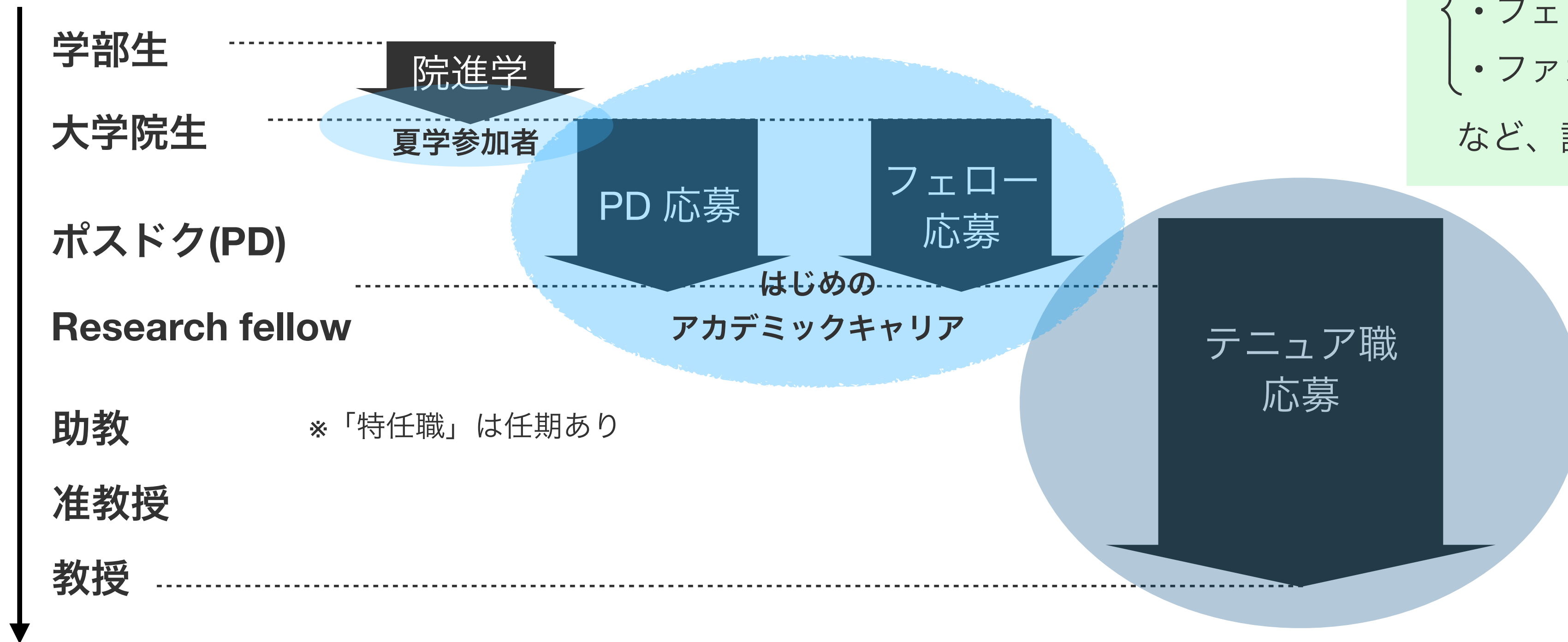
**Research fellow (フェローシップ研究員):** 奨学制度などに採択され、生活費・研究費など支援を受けながら研究する研究者

ポスドク vs フェローシップ研究員? (→後述)

# アカデミックキャリア

[増田直紀 (2019) 中央公論新支社]

## 典型的なキャリアパス



{  
• ポスドクとしての任期・着任回数  
• フェローシップの利用のタイミング  
• ファカルティ応募のタイミング  
など、詳細は人それぞれ選択が違う

### 終身在職権 (テニユア):

定年まで職につける権利 (あるいは定年がない場合も)

初めはテニユアなしで雇われ、数年後に終身雇用に切り替えるための審査が行われることが多い

### Principal Investigator (PI):

研究室を自分の意思で運営する(=論文生産・研究費獲得に責任を持つ)役職のこと

研究室構成員として学生・ポスドク・研究員を迎え、一緒に研究活動に携わる

# ポスドク vs フェローシップ研究員 (1/2)

## ポスドクとして雇われる = 雇い主のために研究する

- 応募書類 = 自分の**これまでの研究成果**とこれからの研究計画を書く
  - 「これまでの研究成果」から、以下の項目が重視される傾向にあるとされる
  - 応募者が自分の研究室にポスドクとして赴任したら、どんな研究ができるか？
  - 共同研究をきちんと遂行する能力があるか？
- 雇われたら、雇い主の研究機関で働く
  - 基本的に、雇い主との共同研究を遂行するために研究し、対価として給料が支払われる**
  - 一見受け身に聞こえるが、**世界のPIと密に研究できるとても貴重な機会**
- 雇い主との相性、所属するグループの雰囲気も非常に重要と言われる
  - 雇い主のパーソナリティ ・ 研究哲学 ・ 研究手法 etc
  - グループメンバーの構成
- 内部情報はなかなか外から見てはわかりにくい (特に海外機関)  
興味のある研究機関には研究滞在・セミナー訪問を申し込むなど、積極的にコンタクトを取るといいと思います

# ポスドク vs フェローシップ研究員 (2/2)

## Fellowship に受かる = 自分の研究にお金がつく

- 申請書 = 自分の今までの研究成果とこれからの研究計画を書く  
「これからの研究」に投資価値があるか？実現性があるか？業績から判断される
- 受かったら、指定した受入機関で自分の計画に従って、自分の研究に専念できる
- 日本で最も有名なフェローシップは日本学術振興会の特別研究員 (特別研究員-PD、海外特別研究員)  
各大学で行われる説明会に出れば、傾向と対策を聞くことができる
- 海外にも fellowship がたくさん
  - Pappalardo Fellowship [\[https://physics.mit.edu/research/pappalardo-fellowships-in-physics/\]](https://physics.mit.edu/research/pappalardo-fellowships-in-physics/)
  - Newton International Fellowships [\[https://royalsociety.org/grants-schemes-awards/grants/newton-international/\]](https://royalsociety.org/grants-schemes-awards/grants/newton-international/)
  - Marie Curie Fellowship [\[https://ec.europa.eu/research/mariecurieactions/actions/postdoctoral-fellowships\]](https://ec.europa.eu/research/mariecurieactions/actions/postdoctoral-fellowships)
  - Humboldt Research Fellowship [\[https://www.humboldt-foundation.de/en/apply/sponsorship-programmes/humboldt-research-fellowship\]](https://www.humboldt-foundation.de/en/apply/sponsorship-programmes/humboldt-research-fellowship)
- それぞれ申し込み方・研究機関への許可の取り方・応募資格など異なる  
興味のあるものは調べて挑戦してみることをおすすめします  
締め切りは、一般のポスドク公募より早く設定されることが多いので注意

先日、素粒子論グループのメーリングリストへも今年度の情報が転送されていました (cf. [Sg-l:6866])

# 情報の集め方 (1/2)

## Academic Jobs Online [\[https://academicjobsonline.org/ajo\]](https://academicjobsonline.org/ajo)

- アカデミア最大の就活ポータル
- 海外ポストドク公募が多数掲載される
- キーワードを入れて情報を検索できる (eg. High energy physics, Particle physics, ...)
- 応募もAJO経由で行う場合が多い

## HEP inspire [\[https://inspirehep.net/\]](https://inspirehep.net/)

- 論文だけでなく公募情報も検索できる
- AJO と inspire、どちらも見た方がいい  
(AJO経由で応募しない公募はinspireにしか載っていないことも)

## メーリングリスト

- 素粒子論グループのメーリングリスト (Sg-I) などに公募に関する情報が転送されることも

AcademicJobsOnline.org Portfolio | Jobs | **Search** | Status | Help | Logout

Search the job listings

キーワードを一般的にすると広く探れるが、ざっと  $\mathcal{O}(100)$  は出てくる覚悟を決めて全探索するか、必要に応じてキーワードの絞り込みを

Position ID / Title & Description	<input type="text"/>
Fulltext Search	<input type="text" value="particle physics"/>
Disciplines	Select One
Position Types	Postdoctoral
Employer Name	<input type="text"/>
Country / State	Any Country   Any State
Posted during	<input checked="" type="radio"/> any <input type="radio"/> this week <input type="radio"/> this month <input type="radio"/> last month
	<input checked="" type="radio"/> any <input type="radio"/> unread <input type="radio"/> new since last read <input type="radio"/> read
For me	<input checked="" type="radio"/> any <input type="radio"/> marked <input type="radio"/> not interested <input type="radio"/> neither <input type="radio"/> either <input type="radio"/> not <input type="radio"/> not
	my notes: <input type="text"/>
Sort by	<input checked="" type="radio"/> alphabetical <input type="radio"/> deadline <input type="radio"/> posting time <input type="radio"/> last update <input type="radio"/> last read
Limit	<input checked="" type="radio"/> all <input type="radio"/> 20 <input type="radio"/> 50 <input type="radio"/> 100

Submit Reset

IRE! Learn more. Take the survey

jobs Literature Authors **Jobs** Seminars Conferences More...

Select Job Filters:  Subscribe to mailing list

astro-ph x hep-ph x PostDoc x Europe x

22 results Most Recent

Postdoctoral Research Associate (Edint)  
hep-ph PostDoc  
Deadline on Jan 28, 2022

Postdoctoral Fellow (U. Southampton (main) - Europe)  
hep-ph hep-th PostDoc  
Deadline on Jan 31, 2022 Posted 10 days ago

Postdoctoral position to work on the LHCb upgrade (Syracuse U. (main) - Europe, North America)  
hep-ex hep-ph Experiments: CERN-LHC-LHCb PostDoc

この欄を選ぶことでフィルターをかけられる (eg. 分野、ポジション、地域)

# 情報の集め方 (2/2)

## 国内ポストク公募の情報源

- 素粒子論グループのメーリングリスト (Sg-I)
- 日本アカデミア就活ポータルサイト (JREC-IN)  
[<https://jrecin.jst.go.jp/seek/SeekTop>]
- 国際公募として出る場合は、AJO や Inspire に掲載されることも

## コメント

- 応募書類・アピールする業績の準備にはそれなりの時間がかかる
- 科研費研究員など、研究プロジェクトに紐づいた役職については、その年度の科研費の獲得状況に依存する傾向にある
- より具体的な情報を知りたい方は、「はじめてのぽすどく」をご覧ください

(佐藤芳紀さんによる更新が最新版 [2019年10月10日] たった20ページでポストク・研究員応募の全体像がわかる)

[[http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/sokendenshi/vol29/Postdoc\\_soryushi.pdf](http://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/sokendenshi/vol29/Postdoc_soryushi.pdf)]

The screenshot shows the JREC-IN Portal website. At the top, there is a navigation bar with the JREC-IN logo, language options (日本語 / English), and a help link. The main header reads 'イノベーション創出を担う研究人材のためのキャリア支援ポータルサイト'. Below this, there is a search section for job openings with a search bar and a '検索' button. A red circle highlights the search input field. To the right of the search bar, there is a 'more' link. Below the search bar, there is a 'お知らせ' (Notice) section with several news items. To the right of the search bar, there is a 'ユーザーメニュー' (User Menu) with buttons for '新規登録' (New Registration) and 'ログイン' (Login). Below the search bar, there is a '求人公募情報検索' (Job Opening Search) section with a search bar and a '検索' button. The search bar has tabs for 'キーワード', '勤務地', '研究分野', '職種', and '複数条件'. Below the search bar, there is a 'フリーワード検索' (Free Word Search) section with a search bar and a '検索' button. To the right of the search bar, there is a sidebar with links to '求人機関のみなさまへ', '求人機関からの求職者照会メール', 'マッチングメール設定', '検討フォルダ', '応募書類作成ツール', 'Web応募状況確認', and 'アカウント情報'.

### 【ブース座談会・会場A】

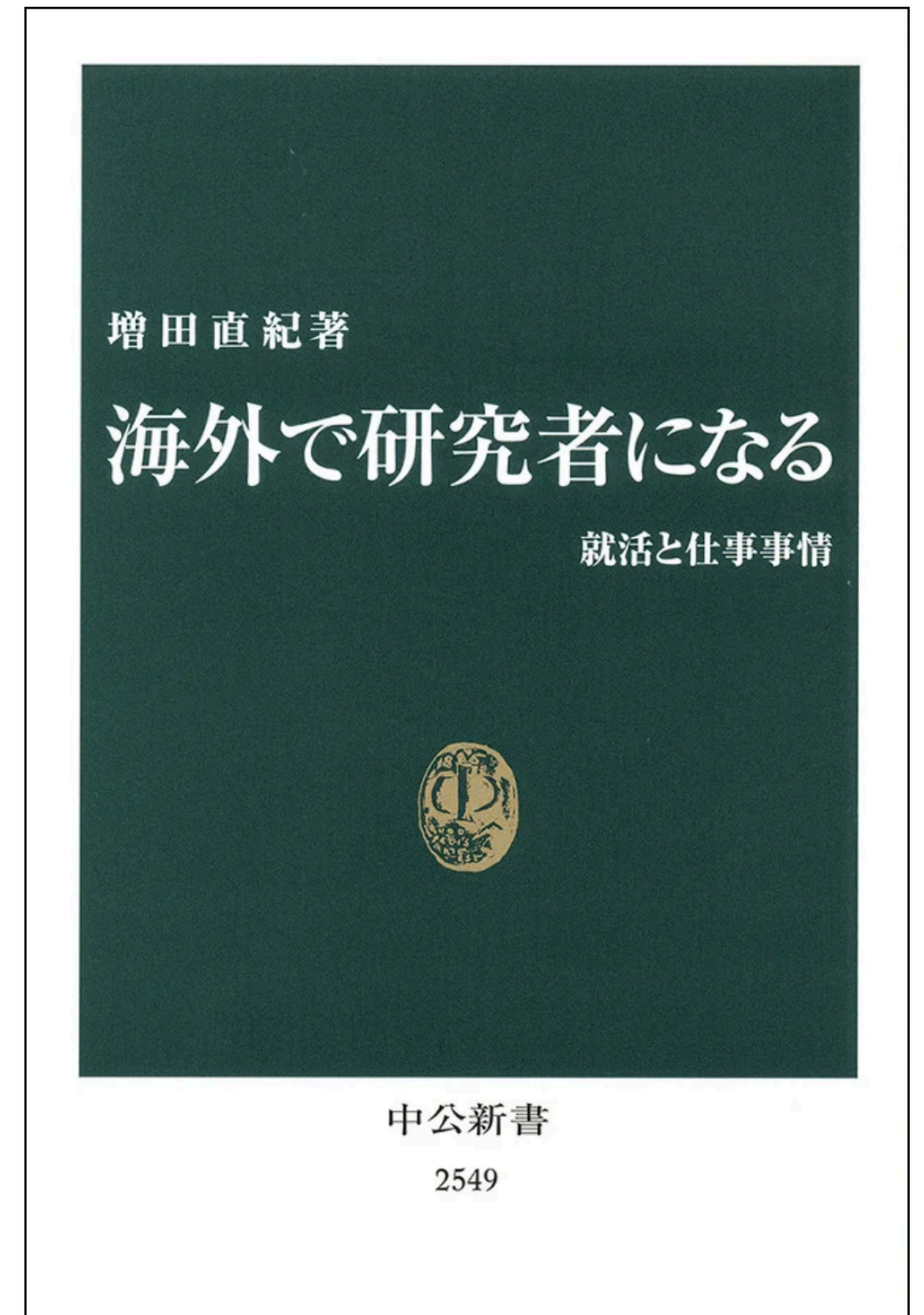
- 秋田謙介さん (IBS・ポストク)
- 阿部慶彦さん (神戸大・特別研究員)
- 濱田祐さん (KEK・特別研究員)
- 秋山進一郎さん (東京大・特任助教)
- 酒井勝太さん (KEK・特別研究員)
- 藤原素子 (東京大・ポストク)

# おすすめの本: 海外研究者編

[増田直紀 (2019)]

## 「海外で研究者になる」

- 「海外で研究室の主催者になる」というイベントを切り口として具体的な選考過程や文化の違い、日本と海外の研究事情の比較等が書かれた本
- 著者: 増田直紀さん[HP] (専門: ネットワーク科学・数理生物学)  
内容は異分野にも汎用性のある一般的なもののばかり
- 筆者の体験に加え、いろんな環境・条件・動機で海外PIになった研究者の話も読める
  - イギリスで研究室運営者になった著者の就活体験記
  - イギリスでの大学生活について
  - 海外で大学教員になった17人へのインタビュー (就活事情・お国柄比較) ...
- 増田さんの実体験に基づいた「**研究者としての(国内にとどまらない)キャリア形成の大局観**」を活字で読める  
学生の皆さんが現時点で読んでも、参考になる情報・考え方が書いてあると思います



### 【ブース座談会・会場B】

- 鎌田耕平さん (東京大・助教)
- 佐藤亮介さん (大阪大・准教授)
- 野中千穂さん (広島大・教授)

# おすすめの本: アカデミアの”外”編

今回のキャリアフォーラムでは  
アカデミアにフォーカスしましたが

[岩波書店 編集部 (2021)]

## 「アカデミアを離れてみたら」～博士、道なき道をゆく～

- アカデミア(=大学・研究機関の研究職)を色々な理由で離れた人たちの21人による手記  
岩波書店のWeb連載が元となって出版された本
- 主に理系のアカデミア出身者の体験談が読める (どれもかなり具体的)
  - 企業研究者、官僚、指揮者...
- アカデミアを離れた理由は様々だが、その人ならではのポジティブな理由が印象的
- 最大の特徴: 「決して輝かしい著名人だけを取り上げているわけではない」点  
※榎木英介氏によるあとがきから抜粋  
誰もが普通に抱える悩み・夢・挑戦にどう向き合いどんな答えを出したか等身大の報告書
- 「アカデミア・アカデミア以外」という区別はもう古い?

創意工夫次第で色々なキャリアが実現できる、と教えてくれる現在進行形の物語集

アカデミアを志す方・アカデミアの外で活躍したい方、すべての立場の方におすすめできる本



### 【ブース座談会・会場B】

- 長井遼さん (日立製作所): 素粒子現象論 → 量子コンピュータの研究開発
- 南崎梓さん (名古屋大): 素粒子現象論 → 大学広報・科学広報・科学コミュニケーション



# 博士人材のキャリアパス調査

## 「博士人材追跡調査」

- **主催** : 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)
- **調査目的** : 博士人材を巡る政策立案・その政策効果の評価検証等  
データに基づき客観的根拠に立脚した政策策定に貢献する  
(eg. テニュアトラック制度、女性研究者の活躍促進策などの評価)
- **調査内容** : **博士課程修了者のキャリアパスを継続的に追跡する**
  - 博士課程進学前の状況
  - 在籍中の経験
  - 博士課程修了後の就業状況・キャリア意識
  - 研究状況等
- **最新版** : 「第4次報告書」 (2018年度博士課程修了者を対象に1.5年後の状況) が Web に公開されています  
[\[https://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/NISTEP-RM317-FullJ.pdf\]](https://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/NISTEP-RM317-FullJ.pdf)



# 今後の展望



# 今後の展望

## 学位取得後のキャリアの話をもっと気軽に

- キャリアフォーラムの開催などを通し、学生の皆さんが将来の可能性をオープンに検討できる機会を作っていきたい
- 夏学キャリアフォーラム、企画は実現したけど自分たちも手探りだった、例えば...
  - どんな情報に興味があるんだろう？ (国内公募・海外公募？ 直近のポスドク・もっと先まで？)
  - どんな場所で講演したら効果的か？ (夏学？研究会？学会？個々の研究室？)
  - だれのどんな話を聞きたいんだろう？ (1st ポスドク奮闘記？テニュア職までのビックヒストリー？)
  - 今後も継続するとして、持続可能性は担保されるか？ (毎年やる必要はあるか？規模はこのままでいいか？)
- 夏学キャリアフォーラムの継続の是非は、夏の学校運営陣を中心に検討してもらう予定です
- 検討材料として、皆さんからの**講演に関する率直なフィードバック**が欲しいです

アンケートのご協力よろしくお願ひします ※ 回答は講演後で大丈夫です

# ぜひ、声をあげてください

## 例: ポスドク応募に特化したキャリア講演

- 2022年1月17日、ポスドク応募に特化したオンライン講演 (約2時間) を開催、応募方法・経験談を話した
- 当時D2 (現D3) のHEP学生コミュニティから要望を受けて実現 (今回の夏学キャリアフォーラムの前身)
- 講演後、「海外でセミナーしたいのですが、どう連絡を取ったらいいでしょうか？」など、具体的な相談も受けた講演をきっかけに、キャリアに関する質問や相談をするハードルを下げられたのではないかと思う

## 例: 研究室レベルでのキャリア講演

- 濱口幸一さん (東京大学・私の現ボス) が、素粒子論研究室でキャリア講演を開催してくれた
- 研究室の卒業生に声をかけ、民間・アカデミアごとに二人のスピーカーを迎えて開催
  - 学位取得 → 民間企業のキャリアパス
  - 学位取得 → 海外ポスドク → 国内助教のキャリアパス

具体的な要望があれば、まわりにもサポートできることがあると思います

# ブース座談会でもお話ししましょう！

## 私が話せること

- 学位取得について (2022年3月学位取得@名古屋大、研究テーマ: 暗黒物質の現象論)
- 学術振興会 特別研究員への応募
- 海外ポスドクへの応募 [続編]
- 国内ポスドク (半年間) の経験
- はじめての海外生活 拠点の整え方 ~ドイツ1ヶ月滞在を経て~
- 学位取得後のキャリアパス追跡調査 [続編]
- キャリアフォーラムへの要望 など

自分も道半ばですが、皆さんと学位取得後のキャリアについて気軽に話せたら嬉しいです

特別企画 三者共通キャリアフォーラム

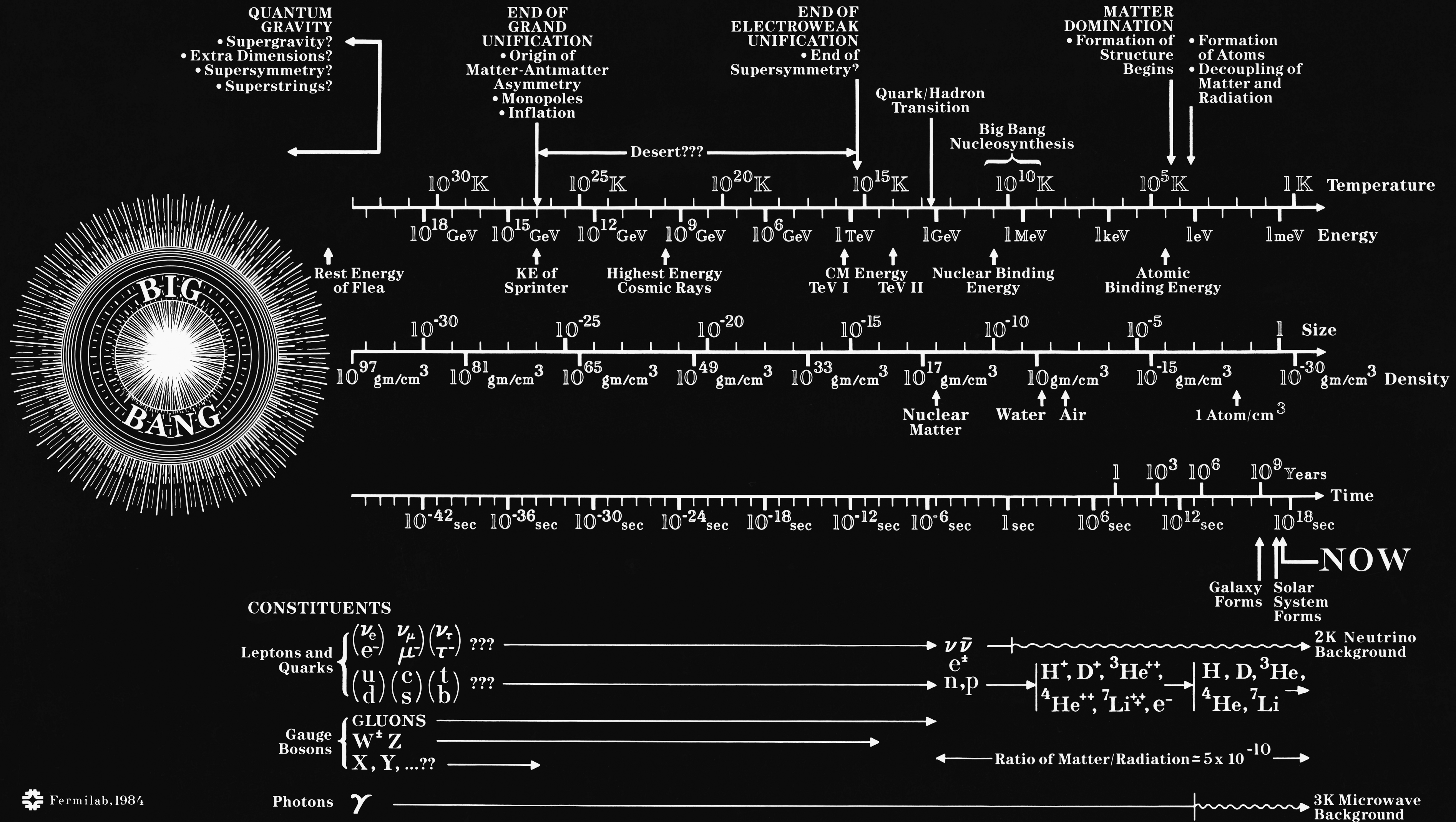
「夏学 OB・OGと考えるアカデミックキャリア」

インストラクション

Fin.

ありがとうございました  
残りの講演・座談会もお楽しみください

# Backup





# 夏学キャリアパスフォーラム

## 今後の可能性





# ブース講演者からのフィードバック

座談会終了後、各ブースの講演者の方からフィードバックをもらい、キャリアフォーラムの開催形態について改善点を洗い出しました

[2022.08.08 更新]

- 参加者からの質問が結構固定化されていた、入れ替わった聴衆から何回か同じ質問がされることも  
→ **頻度の高い質問は事前にブース講演者に共有し、事前に回答スライドの用意をしておいた方がスムーズかも**
- ブースによって参加者の人数分布が偏っていた、講演者情報のPDF配布だけでは講演者の紹介が不十分？  
→ **ブース座談会の開催前にゴングショーを行い、各ブース講演者にアピール時間を設けてはどうか？**  
スライド一枚くらいの用意なら負担にならないし、その後ブース講演でも使いまわせる
- 各ブースを開いて出入り自由と言っているけど、結局 **聴衆は各部屋に固定化してしまいパラレルセッションのようになってしまっていた？**  
→ 参加者側にとって1時間の開催時間は十分だったか気になる、アンケートで集めた参加者の意見も参考にスケジュールを調整してほしい
- 分野変更時やアカデミアを離れる時のマインド・自分に課していた条件などを多く聞かれた  
→ **履歴書には現れない「気持ち」の部分が参加者は気になるのかも、文字に残しにくい内容だからこそこういう機会に共有する意味があったのかも**
- アカデミア以外のキャリアについてどの程度このキャリアフォーラムで扱うかは要検討  
→ 夏の学校の開催趣旨とずれないためには、あくまでアカデミックキャリアをメインに扱うべきではないか  
**「同じ業界で学位を取った先輩方の経験談を聞く機会」の実現に徹するのが一番中立かもしれない**
- 一番の課題はキャリアフォーラムの持続可能性の実現、夏学OB・OGのボランティアでこの規模を維持し続けていくのは現実的には厳しいのでは？  
→ **業界全体から理解・サポートが得られると大きい**、ブース講演に協力していただいた方々にもメリットがあるような仕組みも考えるといいかも  
(例: キャリアフォーラムに協力してくれた研究者には、夏の学校で研究発表の枠も同時に設け、自分の仕事や業績を売り込めるようにする)

# 今後の形 ~持続可能性を目指した努力~

## キャリアフォーラムの需要を地道に周知

- 一番大変で非自明なのは、間違いなく夏学OB・OG側の講演者のセッティング  
→ 研究者業界にある程度コネクションが必要、夏学の現役運営陣だけでは現実的には務まらず負担も大きい
- 今回は講演者側の理解に本当に助けられた (土曜夜・謝金なしのオファー(!)にも、ほぼ全員から二つ返事で協力快諾をいただく)
- 開催実績を積み重ね、**キャリアフォーラムの開催趣旨・内容を業界に浸透させていくことが遠いようで一番の近道**  
→ 講演依頼を受ける側も、イベントの存在や開催形態を知っていれば依頼を受けやすい  
例: キャリアフォーラムに参加した学生メンバーが、学位取得後に夏学OB・OGとして運営に携わる = **持続可能な枠組みの実現!**

## 開催形態の変更 (例: パネルディスカッション)

- 今年度の開催で夏学参加者からの質問が固定化されていた状況が判明  
→ あらかじめ質問を募集しておき、**代表者に質疑応答してもらうパネルディスカッションの形の方が適している?**  
来年度以降も積極的に様々な開催形態を試し、最適な形を模索していくのが重要
- 例えば、夏学参加者代表と夏学OB・OGからそれぞれパネラーを用意し、1時間程度の対談形式で開催
- 〇(10)名のブース講演者をセッティングする必要もなく、オンラインウェビナー形式でも簡単に実現できる  
→ **参加者が効率的に知りたい内容にアクセスできる & 運営側の負担を軽減できる = 持続可能性 実現への第一歩**



# 第二部 ブース座談会

## 講演者の紹介



# ブース座談会

- **参加方法:** 講演者のいるブレイクアウトルーム（全11スペース）に参加して交流する
- **開催時間:** 18:15-19:15 (入退場 自由)

## 講演者の紹介

- **秋田謙介さん** (IBS・ポスドク) 素粒子宇宙論 (ニュートリノ・暗黒物質)
- **秋山進一郎さん** (東京大・特任助教) 格子場の理論、テンソルネットワーク
- **阿部慶彦さん** (神戸大・特別研究員) 素粒子物理学
- **鎌田耕平さん** (東京大・助教) 素粒子宇宙論
- **酒井勝太さん** (KEK・特別研究員) 場の理論、行列模型、エンタングルメント・エントロピー、数値解析
- **佐藤亮介さん** (大阪大・准教授) 素粒子現象論
- **長井遼さん** (日立製作所・研究員) 素粒子現象論 → 量子コンピュータの研究開発
- **野中千穂さん** (広島大・教授) 原子核理論 ハドロン物理
- **濱田祐さん** (KEK・特別研究員) 素粒子現象論・宇宙論
- **藤原素子** (東京大・ポスドク) 素粒子現象論・宇宙論
- **南崎梓さん** (名古屋大・研究員) 素粒子論現象論 → 大学広報・科学広報・科学コミュニケーション

# ブース座談会 講演者紹介 (1/3)

## ポスドク・学振研究員・特任教員

● 秋田謙介さん	(IBS・ポスドク)	素粒子宇宙論 (ニュートリノ・暗黒物質)	海外国内ポスドク応募時、韓国での生活 IBSでの研究などの経験について
● 秋山進一郎さん	(東京大・特任助教)	格子場の理論 テンソルネットワーク	キャリア形成について学生当時考えていたこと 学生結婚、異分野研究室への着任
● 阿部慶彦さん	(神戸大・特別研究員)	素粒子物理学	話せることは何でも
● 酒井勝太さん	(KEK・特別研究員)	場の理論、行列模型 数値解析 entanglement entropy	学振の話 アカデミアのポスト探し ""外""から見た我々(就活他、個人の主観)
● 濱田祐さん	(KEK・特別研究員)	素粒子現象論・宇宙論	PD学振・海外学振の応募 PD学振着任以降の経験について
● 藤原素子	(東京大・ポスドク)	素粒子現象論・宇宙論	特別研究員応募、海外ポスドク応募、国内ポスドク着任 海外ポスドク着任準備

# ブース座談会 講演者紹介 (2/3)

## 国内テニユア職

● 鎌田耕平さん	(東京大・助教)	素粒子宇宙論	海外PD応募、異動後の研究内容の変化 海外からの国内ポジション応募
● 佐藤亮介さん	(大阪大・准教授)	素粒子現象論	※ 第一部のご講演参照
● 野中千穂さん	(広島大・教授)	原子核理論・ハドロン物理	海外ポスドク応募、PD学振研究員応募 海外学振研究員応募、国内テニユア応募 テニユア後のキャリア形成について

# ブース座談会 講演者紹介 (3/3)

## アカデミアの外で活躍する方々

- 長井遼さん

(日立製作所・研究員)

素粒子現象論 → 量子コンピュータの研究開発

ポスドク／P D学振研究員の応募経験、着任以降の経験、企業への転職活動、転職後の経験など

- 南崎梓さん

(名古屋大・研究員)

素粒子論現象論 → 大学広報・科学広報・科学コミュニケーション

素粒子論の博士取得後の大学広報のキャリアについて